

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 SCOR分科会

更新日 2012/7/2

(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 海洋研究科学委員会

(欧文) Scientific Committee on Oceanic Research

(略称) SCOR

日本学術会議加入年(西暦) 1958 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) SCOR Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Wolfgang Fennel		Satoru Taguchi, John Volkman, Ilana Wainer	Edward Urban
(国)	ドイツ		日本, オーストラリア, ブラジル	アメリカ

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

会長は4年ごとに、副会長および他の役員は2年ごとに推薦(および選挙)が行われて決定する。まずSCOR役員推薦委員会(元会長を議長とする)が設立され、各加盟国の国内委員会からの推薦その他を勘案して候補者名簿を作成、各加盟国に提示する。これに対し、3カ国以上の反対がなければ選挙は行わず、SCOR総会において承認・決定される。

加入国・地域の数 35ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

アメリカ、ロシア、日本、イギリス、フランス、ドイツ、中国、ノルウェー、カナダ、イタリア、オーストラリア、チリ、ペルー、

国際学術団体のホームページURL

<http://www.scor-int.org/>

国際学術団体の年間運営経費

US\$1,151,117

日本の分担予定額[事務局で記入]

3,040千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	SCOR総会	ヘルシンキ	46	2	無
2010	SCOR総会	トゥールーズ	35	2	無
2008	SCOR総会	ウッズホール	97	7	無
2006	SCOR総会	コンセプション	64	3	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	SCOR執行理事会	ヘルシンキ	19	池田元美	1
2009	SCOR執行理事会	北京	15	池田元美	1
2007	SCOR執行理事会	ベルゲン	15	蒲生俊敬	1
2005	SCOR執行理事会	ケアンズ	19	蒲生俊敬	1
2003	SCOR執行理事会	モスクワ	17	角皆静男	1

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

総会または執行理事会の議事録SCOR Proceedings (毎年刊行)
 ニュースレター (年4回)
 作業部会の活動報告書 (不定期)
 海洋の二酸化炭素に関するSCOR-IOC Advisory Panel報告書 (不定期)
 その他多数

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
国際機関等への提言等
GESAMPとの共同で、鉄による海洋の肥沃化を商業ベースで大規模に行うべきでないことの緊急声明を出した(2008年)。
国際事業等への参加・実施等
多くの政府間、または非政府間プログラム(IOC, ICSU, IAPSO, IABO, IAMAS, IGBP, IUPAC, POGOなど)との連携を通じて、さまざまな国際事業を積極的に実践している。特にIOCとの連携では、国際プロジェクトJGOFsを成功裡に終了させ、現在は海洋の炭素観測に関する国際事業IOCCP(International Ocean Carbon Coordination Project)を推進している。
全世界的/地域的研究課題への取組み
海洋の大型研究(SOLAS, IMBER, GEOHAB, GEOTRACES)のスポンサーもしくは共同スポンサーとして深く関与し、進捗状況を総会もしくは執行理事会で確認し、適切な助言を行っている。また、毎年1~2件ずつ新たな作業部会(上限10名の研究者から構成)を厳正なプロポーザル審査を経て発足させ、約4年間にわたり国際旅費と出版経費等のサポートを行っている。その間、作業の進捗状況をチェックし、総会もしくは執行理事会において報告される。
発展途上国への対応
上記作業部会には発展途上国のメンバーが加わることを前提としている。さらにPOGO(Partnership for Observation of the Global Oceans)と共催で、研究者の派遣・招聘に尽力してきた。また2007年には、Committee on Capacity buildingを設立し、発展途上国に対する技術支援や教育支援を継続して行っている。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

海洋科学は地球環境問題との関わりでますます重要性を増しつつある。全世界の海洋科学コミュニティを統括し、大型の海洋プロジェクトの進展をサポートし、またプロジェクト間の連携を促進することによって、海洋科学の発展に資する。
--

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
SCOR副会長	田口 哲	2011	
SCOR副会長	角皆静男	2003	2006
SCOR副会長	角皆静男	1999	2002

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 地球惑星科学委員会SCOR分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本海洋学会	2000	http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/
日本水産学会	4500	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsfs/
日本地球化学会	950	http://www.geochem.jp/
日仏海洋学会	1000	http://wwwsoc.nii.ac.jp/sfjo/
水産海洋学会	900	http://www.jsfo.jp/index.html

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

SCOR分科会
地球惑星科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
田口 哲	なし	蒲生俊敬	なし

会員数	連携会員数	特任連携会員数
0	12	2(申請中)

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- ・ SCORの国内対応体として、SCORからの照会や要請事項の窓口となり、国内での対応を審議する。毎年実施されるSCOR作業部会の応募プロポーザルの内容を審査する。
- ・ 我が国の海洋科学コミュニティの代表として学術研究の方針を審議する。
- ・ 日本学術会議の建議に基づいて設置された東京大学大気海洋研究所からの要請に応じて、委員の推薦等を行う。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/07/20	SCOR ワーキング・グループ申請書の評価 海洋研究船活用の提案
2012/02/01	SCOR 分科会 SCOR ワーキング・グループ申請書の査読分担依頼 新学術研究船計画の紹介 GEOTRACES 小委員会からの報告
2011/09/22	SCOR総会の報告 SCOR分科会の複数委員会による共同管理で大型計画、大震災対応などに取組む 次期分科会への申し送り事項
2011/05/23	SCORワーキング・グループ申請書の評価分担 東日本大震災に対応する各学会の取組み 学術会議大型計画への申請に関する進捗状況 SCOR分科会の複数委員会による共同管理
2011/01/14	SCORワーキング・グループへの申請について議論 学術会議大型計画への申請ヒアリング結果と今後の方針 海洋学会春季大会シンポジウムの提案 GEOTRACES小委員会からの報告
2010/09/27	SCOR総会の報告 学術会議大型計画への意見取りまとめ方法 海洋学会秋季大会シンポジウムの報告 GEOTRACES小委員会設置
2010/06/01	SCORワーキング・グループ申請書の評価 学術会議大型計画への意見取りまとめ方法 海洋学会秋季大会シンポジウムの提案 他の分科会等との連携・GEOTRACES小委員会設置
2010/03/11	SCOR役員(副議長等)への推薦 SCORワーキング・グループ申請の可能性 海洋関連の研究活性化への提案(学会シンポジウム等) 他の分科会等との連携・その他

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

SCOR総会または執行理事会の議事内容を日本海洋学会のメーリングリストに公報し、機関誌「海の研究」に印刷。

SCOR総会または執行理事会の議事内容を日本学術会議のweb pageに掲示し、依頼に応じて「学術の動向」に会議報告を執筆。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本海洋学会評議員会においてSCOR分科会の活動状況について報告し、コメントを求めている。2008年度のSCOR総会と連携して実施されたSCOR50周年記念シンポジウムには日本の若手研究者4名がポスター発表を行ったが、その海外旅費は日本海洋学会の支援を受けた。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

指摘事項のある場合は、20年度までのSCOR小委員会において、主としてメールによる情報交換や審議を行ってきたが、21年度よりSCOR分科会が発足したので、メールによる情報交換に加え、必要に応じて会合を開き、審議・対応する体制を整えている。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

第19期日本学術会議までは、海洋科学研究連絡会がSCORの国内対応体として、SCOR総会や執行理事会に向けた審議を行うとともに、国内の海洋科学コミュニティを代表して海洋科学の振興に向けて懸案事項を議論した。この体制は日本学術会議第20期ではSCOR小委員会に、第21期ではSCOR分科会に引き継がれ順調に機能している。